

恵美須神社

恵美須神社は御手洗町で最も古い神社で、創建は 1666 年に遡る。恵比寿は漁師の神様で、豊漁と航海安全のご利益があると言われている。右手に釣竿を持ち、左手に鯛を持っている姿がよく描かれている。ある地元の伝説によると、この神社は奇跡的な出来事を記念して建てられたと言われている:ある漁師が、毎晩、千砂子防波堤の近くの水に奇妙な光が現れているのに気づいた。そこで釣りをしていると、えびす様の像を釣り上げたという言い伝えである。

えびす様は船と商人の関係が深いことから、七福神の一つである商売繁盛の神としても信仰されている。神社の周辺には、御手洗に運ばれてきた商船の物資を保管するための蔵が立ち並び、後にこの地が町内一番の繁華街となった。

神社の鳥居は栈橋の端に建てられ、海に面しており、商船が到着した際に船員が直接お参りをすることができるようになっていた。近年、この鳥居は縁結びにご利益があると評判で、海に向かって立って鳥居越しに願い事を叫ぶと叶うと言われている。また、拝殿の脇にある小さな祠（ほくら）には「若返りの石」がある。この不思議な石は、何度海に投げてもこの場所に戻ってくると言われており、この石に祈る人にも同じように若返るという奇跡の力があると言われている。

恵美須神社の本殿は 1723 年に建てられたもので、現在の拝殿は 1746 年に再建されたものである。現在の拝殿は 1746 年に再建されたもので、いずれも 1996 年に国の重要文化財に指定されている。